



図1 墳丘斜面の葺石と段築平坦面に樹立された埴輪列 (河合町 ナガレ山古墳の整備・復元状況)

ふるさと御所
文化財探訪

其の十四

古墳時代 (2)

墳丘外表の装飾
葺石と埴輪

生涯学習課文化財係
☎内線696

大形の前方後円墳は、段築(段を設けて造成する。)により築造されます。

3世紀後半の最初の古墳、箸墓古墳の場合には前方部前面は4段からなり、後円部は4段の段築の上に円丘壇が乗ります。この段築については、5世紀代には3段築成が典型例となっていきました。



図2 榑築墳丘墓の特殊壺と特殊器台 (榑築刊行会から転載許可)

河合町所在のナガレ山古墳では築造当時の状況に復元整備した姿を見学することができ(図1)。馬見丘陵公園内にありますので、すでにご覧になった人も多いのではないのでしょうか。

さて、墳丘斜面は、葺石によって覆われることが通有です。葺石は石の小口面を外表面に出す方法で石を積み上げていくものです。なお、これは墳丘斜面を石で覆うという意味では同様に見える貼石という手法とは全く異なるものです。

しかし、先月号でも触れたとおり、埴輪の本来の起源は、吉備(岡山県)地方の弥生時代後期後半の墳丘墓にあることが分かっています。やはり墳丘上や墳丘裾に立て並べられる特殊器台と特殊壺がそれで、最古の榑築墳丘墓例(図2)から吉備地方内で数段階の変遷を経たものが箸墓古墳でも採用されています。

また、各段の平坦面には埴輪や木製の立物が樹立されます。埴輪の起源については、『日本書紀』では垂仁天皇三十二年条において「亡き人に殉死する風習が誠に傷ましかったため、野見宿禰が埴(赤くて粘る土)で人や馬などさまざまな形を作って天皇に献上し、これを陵墓に立てることとした。この土物を埴輪と名付けた。そして天皇は、今より以後、陵墓には必ずこの土物を立てて、人を損なってはならない、と命じた。」と説明しています。

済生会御所病院増築工事に伴う発掘調査では鴨都波古墳群の存在が明らかになり、図3には出土した朝顔形埴輪を掲げています。器台に壺が乗せられた形状をよくとどめる比較的古い型式の朝顔形埴輪ですが、壺と器台は一体化し、しかも壺を表現した部分には底がありません。朝顔形埴輪と、器台に相当する円筒埴輪こそが最古の埴輪であり、日本書紀がいう馬の埴輪の出現は5世紀中葉、人の埴輪の出現は5世紀後葉を待たねばなりません。

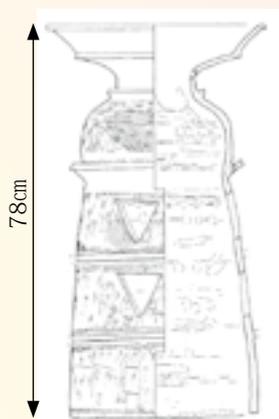


図3 鴨都波古墳群の朝顔形埴輪 (『鴨都波1号墳調査概報』、2001年、学生社から転載)

編集後記

高校時代に眠るのも勉強するのも忘れて読みふけた新田次郎の山岳小説の中でも、現在劇場公開中の映画の原作「劔岳点の記」は私の最も好きな作品です。高校入学した年の山岳部の夏山合宿で劔岳を訪れたときの強烈な印象が影響しているのでしょうか。以来劔岳に魅せられ何度も訪れることになりました。現在も日本を代表する岩と雪の殿堂として、一般ルートから登頂するには日本で最も困難な山のひとつとなっていますが、まだ満足な登山用具すらない時代に、あの孤高で絶望的な頂に果敢に挑んだ先人たちには、限りない畏敬の念を覚えます。(久)



2009.

7